先住民文化の楽しみ ～笑いと思いやりの島～

石井尚子（HANDSボランティア会員）

私は先住民の文化が好きで、ボランティアとしてHANDSへ関わらせていただいています。
今回、初めてミンダナオ島に1ヶ月滞在してきました。この1ヶ月の間は、フィリピンの人のやさしさと笑いが詰まっていました。
貧しい生活のなかでも、食べ物を分け合い、車をシェアする。助け合いの習慣。
CMIPのスタッフと「ラボビーチ」という研修所に行った時には、私はビラーンダンスを真似て踊って見せました。その時も「笑い」の渦が出来ました。彼らのよく笑ってくれること！「人生を楽しもう」、「家族を大切にしよう」という、「戦前の日本」のような、思いやりがありました。

私は以前より、日本のアイヌ民族、沖縄文化
インド、インドネシアなど多国籍な先住民族への文化的興味があります。これまでバリ島で舞踊、インドで歌や瞑想を学んできましたが、今回はミンダナオ島でビラーンダンスを学ぶ機会を得ました。

2弦のギタールや太鼓、竹のリズムに合わせて踊るビラーンダンス。
鳥や蝶、魚の動き、そしてマロン（大きな輪の布）で赤ちゃんを表現しました。

＜ダンスの種類＞（今回伺ったものです）

◎WELCOME DANCE ...”ようこそ”という意味で主に子供・女性が踊る。

◎WITCH DANCE（魔女ダンス）...夜、遅く、赤ちゃんを奪いに魔女がやってくるぞというダンス。（魔女役のダンサーは髪をおろして雰囲気をつくる）

◎BIRD DANCE（鳥ダンス）...収穫の時期にやってくる、タハオという鳥の動きを真似るダンス。

◎モンキー　ダンス...猿は人間のbest friendだったということからきたダンス。

◎BABY DANCE...物語風ダンス。（赤ちゃんをあやして平和に暮らしている夫婦に、踊りながら男が近づき、赤ちゃんを奪おうとする、両親が踊りながら必死で守る。結果、平和が訪れる

ダンサーの衣装は髪にクシ、腰に鈴のたくさん付いたベルトをつけるので、実際に踊るとすごく大きな音がするのです。足のステップに合わせて腰の鈴が鳴ります。

ビラーン民族の青地に白や赤の細かな刺繍をほどこした女性のブラウスは、今でこそお祭りなど特別なときに主に着ていますが、昔は普段から着ていたそうです。

私は、その話から昔のビラーン民族の生活を想像しました。まだ西洋の文化的影響を受けていない頃には、人間の存在そのものが、踊りや演奏を通し、自然への畏敬の念を今よりもたくさん持っていたのかもしれないと感じたのです。

また、彼らのダンスの内容には動物や神秘的なものが多く出てきます。森の減ってゆく今、資源としての森とともに、インスピレーションの源としての「森」を守っていく必要を強く感じました。